

大学・学生と地域がコラボして京都のまちを活性化！！

学まちコラボ

平成28年度活動報告



公益
財団
法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto



京都市
CITY OF KYOTO



🐦 学まちコラボって??

大学・学生と京都市で暮らす人々との連携は、大学内だけでは得難い貴重な学びを創出します。

京都市と大学コンソーシアム京都では、魅力あふれる京都のまちづくりに貢献しながら得られる学生の学びを充実させるため、大学・学生と地域が目的を共有し一体となり、京都のまちづくりや地域活性化に資する事業を広く募集し、認定した事業に支援金(最大30万円)を交付して取組を応援しています。

大学・学生 × 地域
＝地域活性化!!



4月～5月	募集
6月	審査 (書類・プレゼンテーション)
7月	認定式 事業実施
3月	事業報告会・意見交換会

🐦 応募も学び!!

公開プレゼンテーション審査

応募団体の中から書類審査を通過した団体が、選考委員や一般来場者の前でそれぞれの取組をプレゼンテーションします。平成28年度は30件の応募のうち、書類審査を通過した21件がプレゼンテーション審査に臨みました。

各団体は工夫を凝らしたプレゼンテーションで取組をアピール。選考委員から厳しい質問が飛ぶこともあります。どの団体もしっかりと準備を重ねてきた成果を存分に発揮します。また、連携する地域の皆さんも応援にかけつけていただきました!



🐦 さあいよいよスタートだ!!

認定式・講評



採択された事業について、門川大作京都市長や選考委員同席のもと、認定式を開催。市長から認定証を交付され、各団体が取組に向けた決意を表明。地域活性化に向け、力強くスタートを切ります。

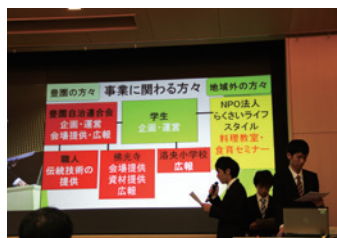


認定式終了後には、選考委員から、採択団体それぞれに対して講評やアドバイスが行われ、各団体は真摯に聞いていました。



採択された18団体が地域のみなさんとともに活動開始！！ 詳細は各事業のページを御覧ください！！

	No.	事業名	団体名	ページ
認定事業	1	まちやこうえん計画	特定非営利活動法人深草・龍谷町家コミュニティ (京まちや七彩コミュニティ)	3
	2	カモシネマ	立命館大学カモシネマ実行委員	4
	3	伏見深草・東高瀬川の環境保護と地蔵盆プロジェクト	龍谷大学・東高瀬川の環境保護と地蔵盆プロジェクトチーム	5
	4	音もだち大作戦！～0歳からの音楽会～	京都芸大生有志による ニコニコファミリーコンサート実行委員会	6
	5	みらいアートせいかプロジェクト	しーかす	7
	6	京北宇津ふれあい学びあい	京都精華大学京北宇津宝さがし会	8
	7	親子で楽しむ人形劇のひろば	京都女子大学 人形劇団たんぽぽ	9
	8	白川みんなの地蔵盆	おちゃのこ会	10
	9	東山の地獄絵地蔵盆 ～仕事を根付かせる～	京都造形芸術大学 近代産業遺産アート再生プロジェクト「まか通X」	11
	10	豊園 ～未来へ繋ぐ縁側プロジェクト～	豊園～人をつなげる縁側プロジェクト～実行委員会	12
	11	新大宮商店街そらたね2016	そらたねプロジェクト	13
	12	北区つながるラジオプロジェクト	立命館大学産業社会学部坂田ゼミ	14
	13	京都三条会商店街寺子屋事業	京都光華女子大学 光華三条ガールズ	15
	14	京北弓削さとまち交流プロジェクト	京北弓削さとまち交流プロジェクト実行委員会	16
	15	西陣の朝市マルシェ支援事業	西陣はらぺこマルシェ	17
	16	地域と大学の共生プロジェクト	京都経済短期大学・ 地域と大学の共生プロジェクト	18
	17	京都文教大学バスツアーズ	京都文教大学バスツアーズ	19
	18	畑からの贈り物	VegiRitsu	20



学生が、地域の方と
共に取り組んだ成果を
選考委員や一般来場者
の前で発表します。平
成25年度からは、最
も優れている取組を

報告会終了後には、一般来場者も交えた意見
交換会を行いました。
取組に対する質問か
ら、アイデア提案な
ど活発な意見交換と
なりました。



行った1団体を選び表彰しています。

様々な課題に直面し
つつ取り組んだ成果は、学
生と地域にとって大きな
財産となり、今後の活動
にいきることでしょう。



実施団体の紹介

特定非営利活動法人深草・
龍谷町家コミュニティ
(京まちや七彩コミュニティ)

深草地域の住民や地域団体と学生が交流し、地域課題に取り組む拠点「龍谷大学深草町家キャンパス」の運営を行い、学生有志スタッフ「京まちや七彩コミュニティ」が地域と連携・協働して地域活性化など地域活動を担う。

子育て世代の地域親子、
名神深草森の会、弁当塾、
北加賀屋みんなのうえん

子育て世代の地域親子と定期的に集会を行い、畑を運営している。地域企画として子ども達が農や食に触れる機会をつくる。また、日常的に野菜や庭の手入れをしながらイマドキの学校事情や子育てについて話した。さらに、各団体とコラボし単独ではできない取組に挑戦している。

* * * 事業について * * *

目的

「まちやこうえん計画」事業を通じて、人が繋がる場をつくり農や食に関する取組を地域親子と企画した。

居場所や憩いの場が少なく、人と出会ったり、友達を作る場がないという声を踏まえ、「テーマで繋がるコミュニティ」の形成を目的としている。京町家で活動することで井戸や竈(かまど)を用いた農ある暮らしの体験や伝統継承を意識した。

活動
内容

春・夏野菜の収穫祭に向け、5ヶ月間定期的に「こうえんミーティング」を実施した。集会を開催することで、地域親子との関係を深め、収穫祭企画を一緒に行ってコンセプトや対象について話し合った。また、施設閉館日以外の放課後の時間帯に毎日学生が常駐し「まちやこうえん」にきて、遊び、野菜の世話をする親子と学校のことやまちの悩み事、恋愛相談まで色々な話をし、モノづくり教室で新規メンバーを募りながら居場所づくりに努めた。

成果

〈学生にとって〉

3年間の活動を通して、知識が足りない時は能動的に図書を手にとりながら、活動と学問を連動させ、理論と実践を横断する能動的な勉強会が継続的に取り組まれている。

〈地域にとって〉

3年間の継続を通じて、学生と親子だけでなく、親子同士の関係が深まり、「まちやこうえん」以外の場所でも遊んだり、相談し合ったりする関係性ができてきている

学 生 ・ 地 域 の 声

学生と親子ではなく、「名前」と「名前」、「顔」と「顔」の繋がりを持って「個性」を尊重する関係ができて嬉しい。

3年経過してメンバーが大学を卒業していくのが寂しい。一方で、新入生との出会いが待ち遠しい。



実施団体の紹介

立命館大学カモシネマ
実行委員

カモシネマ実行委員会は、鴨川の河原での清掃をはじめとしたボランティア活動、そして野外映画上映会「カモシネマ」を通して、京都の歴史ある景観において重要な役割を担う鴨川を守るきっかけづくりを行っている。



①鴨川を美しくする会

鴨川茶店、鴨川納涼などを中心に、鴨川を美しく保つボランティア団体。

②関西学生広告連盟

関西大学、関西学院大学、近畿大学、立命館大学の広告研究会の連盟。当日スタッフとして参加協力。

③ミスキャンパス立命館

上映前イベントへの出演。

事業について

目的

鴨川の河原での野外映画上映会や清掃をはじめとしたボランティア活動を通して、鴨川の美化を推進すること、京都の伝統ある自然の1つである「鴨川」の魅力を伝えること、鴨川を美しいままに未来へつなげていくことの実現に向けて、来場した方々にとってカモシネマが鴨川について考えるきっかけとなることを目的としている。

活動
内容

4月には鴨川茶店、8月には鴨川納涼でのごみ回収及び分別ボランティアを行い、鴨川の清掃・美化活動を行った。また、8月20日に開催した「カモシネマ12」の準備や広報等を行った。当日には約300人が来場し、会場周辺（鴨川河川敷）のクリーンハイクと美化の啓発の後、映画「天然コケッコー」の野外上映会を行った。

成果

〈学生にとって〉カモシネマの運営・企画に携わることで、学生たち自身も鴨川に関して考えるきっかけになり、鴨川の現状を知ることができた。また、イベントを企画・運営することで達成感や経験につながった。

〈地域にとって〉

「カモシネマ12」が鴨川へ足を運ぶきっかけとなった。また、カモシネマの野外での映画上映会や、清掃活動などによって鴨川という環境資源の魅力と大切さを知ることができた。

学生・地域の声

毎年大変でしょうけど夏の夜の野外映画は今は貴重な存在なので続けてくださいね。今年もありがとうございます。

運営を通して鴨川の良さを知ることができた。想像よりたくさんの方が見に来てくれて嬉しかった。



深草川久保町自治会
砂川学区自治連合会
砂川学区東高瀬川を美しくする会
京都市立伏見工業高等学校
都市情報システムコース

自治会、自治連合会は地域の伝統行事等を主催する団体。東高瀬川を美しくする会は、河川流域の住民で構成される広域の活動団体。伏見工業高等学校の生徒は、数年前から河川の環境整備として、工学の専門知識をもとにフィールドワークを行っている。



実施団体の紹介

京都芸大生有志による
ニコニコファミリーコンサート
実行委員会

京都市立芸術大学在校生・卒業生有志らにより立ち上げられた音楽グループ。「大人も子供も楽しめる音楽会」をテーマに、観客参加型のファミリーコンサートや音楽ワークショップを企画・運営している。

つどいの広場
ほっこりスペース

京都市の「つどいの広場」事業の一環として開設された施設。小さな子どもとその親が気軽に集い、交流できる場所を目指している。



事業について

目的

昨年度に引き続き、幼い子どもとその家族が気軽に足を運ぶことのできるコンサートの実施を目的とした。また、昨年度のアンケートをもとに、自分たちの音楽スキルを活かし、特に子どもたちを舞台にあげ、聞くだけではなく体験するコンサート作りを目指すなど、より参加者のニーズに応える活動を目指すとともに、訪問演奏の場や演目の幅を拡大している。

活動内容

10月15日(土)に京都市西文化会館ウエスティ(西京区)にて観客参加型のオリジナル音楽劇「白雪姫～小人たちと魔法のうた～」を開催したほか、西京区保育園フェスティバル(西京区)での演奏、京都ファミリー(右京区)での演奏、格致つどいの広場(下京区)、夢窓幼稚園(右京区)への訪問演奏などを実施した。

成果

〈学生にとって〉

「音楽」を用いて「社会」と関わることを実地で学んだだけでなく、自分たちのスキルを活かし、地域のニーズを踏まえた新しい音楽の在り方を提案していくことができたと考えられる。

〈地域にとって〉

昨年度演奏した施設と関連する行事での演奏依頼をいただいた。自分たちの活動が少しずつ地域に広まっていることを実感した。今年度は活動地域を広げたことで、多くの場所で身近にクラシック音楽に触れることができる空間を提供できているのではないかと考えられる。



学生・地域の声

とても近い距離で音楽を楽しむことができて嬉しかった。

「自分の思いを音楽で人に伝える」という、音楽の大事な要素を改めて学ぶことができた。



実施団体の紹介

しーかす

京都市左京区を中心に、学外の方に向けて創作活動体験（現地訪問型のアートワークショップ等）を実施する学生団体。



デイサービスセンター虹 精華大前 京都市市原野児童館など

大学が所在する左京区内の施設。デイサービスセンター虹 精華大前は、大学から徒歩5分の位置にある通所介護施設。市原野児童館は、午前中は乳幼児、午後は小学生、中高生が利用する児童館。

事業について

目的

小・中学校での美術の授業時間の減少、高齢者の生活意欲向上の必要性を背景として、学生が大学で培った能力を活かし、子どもや高齢者を中心とした地域住民が創作活動に触れる場を提供することを目的として実施した。

活動内容

訪問型のさまざまなアートワークショップを実施した。実施前には各施設と打合せを行い、利用者の状況や施設のニーズについて聞き取りを行ったうえで内容を組み立てた。実施後も必ず施設へ訪問し、感想などを聞き取り次回に活かした。

施設の職員だけでワークショップを実施できるよう、引継ぎやレクチャーも行っている。そのほかに活動の参考として、中学校の美術教員現場の見学や、チャリティーイベントへの参加等を行った。

成果

〈学生にとって〉

大学で学んでいる知識や技術の必要性について実感することができた。ワークショップでの応用や、他者に教えることでより理解を深めた。大学生活では得られない、異なる年代の方との交流の機会を得られた。

〈地域にとって〉

デイサービスセンターでは、普段経験することのないものづくりを通して得られた達成感や学生との交流が、利用する高齢者の意欲向上に繋がった。児童館では自身で考え創意工夫したり、制作体験に触れるよい機会となった。

学生・地域の声

制作の機会や交流が本当に喜ばれている。片側だけでなく、お互いにとってメリットのある場となるよう発展させていきたい。

他人に教えるためには自分が理解している必要があるので、勉強になる。年代の違う方との交流は楽しいし、貴重な機会であると感じた。



実施団体の紹介

京都精華大学京北宇津宝さがし会

京都市右京区京北宇津地域の宝（自然、人、技術、伝統、歴史など）さがしや課題の整理、地域と大学の交流イベントなどを通して地域の活性化をめざす活動を行う大学サークルである。



宇津自治会

京都市右京区京北宇津地域の自治会。宇津地域に関する情報や施設の提供、協働作業への参画、イベント広報や告知支援、また、地域住民への情報提供などの協力を行っている。

事業について

目的

宇津地域は豊かな自然と歴史・文化に恵まれながら、高齢化・過疎化が進行しており、我が国の地域社会が抱える問題が顕著に表れている地域である。自治会と学生が協働で、地域住民のニーズに対応しつつ活性化に資する活動を行い、宇津の新しい魅力を再構築することを事業の目的とする。



活動内容

初めて宇津に訪れた人にもわかりやすい案内看板を設置した。毎年開催される子どもフェスタでは、途絶していた灯籠作りを復活させ、宇津に流れる綺麗な川を満喫し、栃本河川公園にある遊具のペンキ塗りを通して物を長く大切に使用することの大切さを伝えることができた。音探しや絵画教室などのイベントを通して宇津の魅力を子ども達に再発見してもらうことができた。



成果

〈学生にとって〉

今年度から参加したメンバーも多かったが、ウォーキングマップや看板を地域の方や子ども達とコミュニケーションを取りながら制作することによって、早々に宇津への理解を深めるとともに馴染むこともできた。

〈地域にとって〉

両者が連携・協力して、構想から3年かけて念願の宇津観光案内板「京北宇津マップ」が完成しました。何度も何度も確認・調整作業を繰り返すうちに連帯感が生まれ、素晴らしい看板に仕上がりました。



学生・地域の声

子ども達が積極的にコミュニケーションをとってくれたおかげで、私たちも楽しみながら活動することができた。

「京北宇津マップ」は、若い人たちのしなやかな発想と行動力の賜物と、通るたびに喜んで眺めています。

実施団体の紹介

京都女子大学人形劇団たんぽぽ

京都女子大学発達教育学部児童学科松崎ゼミ所属の学生によって組織した人形劇団。保育所や幼稚園、児童館、児童養護施設等での訪問上演や、京都女子大学児童学科主催の子ども向けイベントでの上演を行っている。



京都市新道児童館

京都市東山区に所在する児童館である。地域子育て支援ステーション事業実施館にも指定されている。地域との交流を大切にしており、子育て家庭支援やボランティアの育成など、地域福祉の促進にも努めている。

事業について

目的

東山区は少子高齢化が著しく進み、年少人口の割合は市内最低である。こうした現状は、近隣に子育て仲間がいない状況を生み出し、子育て不安や孤立化などの問題を生み出す要因になっていると考えられる。そこで本事業は、孤立しがちな乳幼児の保護者が、人形劇を演じる活動を通じた仲間づくりおよび自己実現を果たす場をつくり出し、子育ての楽しさを感じてもらうことを目的とする。

活動内容

京都市新道児童館にて行われている乳幼児クラブの場で、人形劇を演じて楽しむ活動（タオル人形劇体験ワークショップ）を実施した。また、京都女子大学人形劇団たんぽぽによる人形劇の上演も実施した。活動ではタオルを用いて動物を表現し、そのタオル人形を用いて親子同士で遊んだり、参加者全員で歌をうたったりして交流した。

成果

〈学生にとって〉

大学の学びの中では体験できない保護者との交流を通して、保護者の交流・援助の方法を学ぶことができた。タオル人形を教えることに難しさを感じたが、参加した親子が笑顔で楽しんでいる様子を見てやりがいを感じた。

〈地域にとって〉

この活動を目的に児童館を訪れた方もいて、地域の子育て環境を知るきっかけになったと考えられる。どの保護者も活動に熱心に取り組み、参加した親子同士で楽しく交流する様子が見られた。



学生・地域の声

ワークショップではあまり話したことの
ないお母さんとも交流できて楽しかった
です。子どもは今でもタオルを丸めて遊
んでいます。

受け身ではなく、参加型でしたのでと
ても楽しく過ごせました。タオル一つ
で3つの動物がができる驚き！また優
しい歌にいやされました。

実施団体の紹介

おちゃのこ会

京都華頂大学茶道部、立命館大学茶道部、京都橘大学裏千家茶道部の有志の学生で、東山栗田学区の白川沿いにて、茶の湯による地域づくりの可能性を考える活動をしている。



白川を創る会

白川の魅力の継承・発信を行うネットワーク組織として、河川清掃、自治連合会と合同の子ども祭り、交通量調査、散策マップ作り、勉強会など、地域住民の意識の向上や、地域の魅力の発信につながる活動をしている。

事業について

目的

「京都をつなぐ無形文化遺産」である地蔵盆が衰退する地域の実態を踏まえ、次世代に継承するために、「地域交流の機能」と「文化を継承した現代的な地蔵盆」の定着を目的とした。本年度は、地域を越えた誰でも参加できる地蔵盆を目指した。

活動内容

過去に地蔵盆で実施されていた昔遊びを復活させ、茶道体験など子どもから大人まで楽しめる地蔵盆を企画した。お地蔵さんや行灯を作るワークショップを事前に実施し、地域住民と共に準備を進めた。当日は多くの親子連れで賑わい、様々な昔遊びや白川の石で作ったお地蔵さんのコンテストを行うなど、世代を超えて楽しむことができた。また、学生たちも、昔遊びや茶道を通して、地域の方々と交流することができた。



成果

〈学生にとって〉地蔵盆で行う遊びを、地域の方々と意見を出し合いながら決めることで、共に地蔵盆を作り上げることができた。また、他府県出身の学生が、地蔵盆の文化を知るきっかけとなった。



〈地域にとって〉

地蔵盆が行われていない他地域の親子連れの参加もあり、比較的若い人が少ない栗田学区に子どもが集まった。これにより、地蔵盆の経験を育むことができ、地蔵盆の継承の第一歩となった。



学生・地域の声

誰でも参加できるのは良い。
来年は子どもを連れていきたい
ので毎年やってほしい。

他府県から来た地蔵盆を知らない学生にとって、地域の地蔵盆にいきなり参加することは難しいため、参加しやすいこのような地蔵盆があると嬉しいと思う。



京都造形芸術大学 近代産業遺産アート再生 プロジェクト「まか通X」

東山区の魅力を発見し、芸術を学ぶ学生ならではの視点で、まちの文化や伝統に新たな価値を生み出す。東山区六原学区で活動をはじめ、今年で12年目を迎える本プロジェクトでは、新たに「仕事を根付かせる」ための一歩を踏み出した。



実施団体の紹介

六原まちづくり委員会

六原学区自治連合会内に発足し、地域の各種団体、京都府建築士会、京都市景観・まちづくりセンター、HAPS など、様々な団体が集まり、空家問題や地域全体で取り組む必要のある課題のために活動を行っている。

事業について

目的

東山区六原学区を中心に、まちに残る独自の文化や魅力を、アートの視点から再発見し、新たな価値を提案することで、まちの活性化を目指す。

今年度は伝統文化をまちに根付かせ、還元する仕組みづくりにつなげるためには、イベント産業に展開する必要があると感じながら活動を行った。

活動内容

今年からの新たな取り組みとして、地域の行事である「東山夏まつり」にて、学生と「おやじの会」メンバーによる読み語り（「地獄絵のおはなし」）を開催。また「地獄絵のおはなし」を元に絵本を制作し、夏の地蔵盆にて絵本の読み語りを行った。読み語りを行った町内には絵本を一冊寄贈。さらに、まちのフェスタなどで絵本を販売することにより内外で広く絵本が活用された。また、今後まちの産業となるような仕組み作りに取り組むことが出来た。

〈学生にとって〉

成果

地域の方々と協働でイベント運営に取り組み、より実践的に活動することが出来た。また地域の文化をもとに、絵本の制作・販売も行った。その結果、地域内外に地獄絵文化を浸透させることにつながり、当事業を根付かせるための第一歩となった。

〈地域にとって〉

地域の伝統的な行事である地蔵盆での読み語り（「地獄絵のおはなし」）を通じて、子どもたちに地蔵菩薩の存在や命の尊さを伝えることが出来た。また、読み語りを行った町内に絵本を寄贈し、継続的に絵本を活用出来るようにした。



学生・地域の声

地域の方々とふれあいや協働の中で、大学内では経験できない体験やつながりを得ることが出来た。

地蔵盆の場で子どもたちに、地獄絵を通して、地蔵菩薩の存在や命の尊さを知ってもらう機会ができ、大変良い取り組みだと感じた。

実施団体の紹介

豊園 ～人をつなげる 縁側プロジェクト～ 実行委員会

人々が気軽に集える“まちの縁側”づくりに関心をもつ、龍谷大学経済学部の学生が立ち上げた組織である。平成25年から、下京区の豊園学区で新しいイベントを企画・運営し、地域の人々の交流を促す活動に取り組んでいる。



豊園自治連合会 洛央小学校、仏光寺

地域を挙げて、祇園祭神幸祭で神輿を先導する「櫓」を継承してきた。花見やスポーツ大会などのイベントも多数開催している。

洛央小学校にはイベントのチラシ配布等の広報活動で、仏光寺には場所の提供で全面的に協力いただいた。

事業について

目的

豊園自治連合会をはじめとする地域で活動している団体では、所属スタッフの高齢化が問題視されてきた。その背景としては、地域に住む30代から40代の若い世代の地域活動に対する意識が低いことが挙げられる。今年度は、子育て世代の人達を対象にしたイベントを実施することで、若い人材を発掘しようと考えた。

活動内容

豊園学区で子育て中の親たちに、地域の人々と交流してもらうための仕掛けとして、子ども、もしくは親子をターゲットにしたイベントを企画した。その1つが、スタッフ不足のため、数年前から取りやめになっていた、1泊2日の「自然体験教室」である。夏休みを使って、滋賀県の田村神社に出かけた。もう1つは、親子料理教室の「まちなか野菜博」である。昨年度からの継続イベントで、地域の人々にとって馴染み深い仏光寺で2度、実施した。

成果

〈学生にとって〉

事業の企画・運営をすることでスケジュールの管理や、コミュニケーションの重要性を実感した。

また、地域に住む様々な人達と関わりを持つことで新たな視点や意見に触れることができた。



〈地域にとって〉

学生がイベントを行う中で、通常地域イベントには興味を示さない方にも参加してもらえたことで、豊園学区の魅力を発信できた。その中には、豊園学区で子育てをしている親たちの参加も多く、地域イベントを担う新たな人材の発掘に手ごたえを感じた。

学生・地域の声

学生たちがイベントに参加してくれることで、地域の子供達をはじめ、笑顔が増えたような気がします。

イベントの雰囲気が素敵でした。1人暮らしを始めてから地域イベントに参加することがなかったのでとても懐かしい気持ちになりました。

実施団体の紹介

そらたねプロジェクト

大学生が中心となって、若手社会人と一緒に新大宮商店街やその周辺地域に賑わいをもたらすことを目的に設立された団体。具体的には、秋のそらたね祭を主軸に夏祭りやその他イベントを通して、新大宮商店街の活性化に尽力している。



唯明寺

長く続くそらたね祭において、お寺の境内（ステージに利用）やガレージ（ワークショップや軽食の出店）をお借りするのに毎年ご協力いただいている。また、唯明寺のイベントを団体スタッフが手伝うなど、相互関係を築いている。

事業について

目的

新大宮商店街とその周辺地域に、まちの賑わいをもたらすこと、学生と地域の繋がりを生み出すこと、学生と学生、学生と若手社会人など、人と人を繋ぐことを目的として活動している。

活動内容

毎年恒例の夏祭りのお手伝いや、そらたね祭を開催し、そらたね祭では商店街の食材を使った軽食を提供したり、商店街のお店からわたがし機をお借りして、子どもたちが喜ぶわたがし試作コーナーを新設した。また、より新大宮商店街や子どもたちと距離を縮め活性化に努めるべく、春にはひな祭りや、商店街ゆかりのアーティストを招いた商店街でのライブなども行う予定である。

成果

〈学生にとって〉

新たな地域や学生コミュニティと出会い、やりたい！と本気で思えることが見つかった。また、それに対して真剣に向き合うことの大切さを学んだ。さらに、社会人と関わることで、仕事や地域に対する新たな視野や価値観を得られた。

〈地域にとって〉

少子高齢化により、夏祭りなどのイベントにおける人手不足が危惧されていたが、学生がボランティアとして関わることで、規模の大きいイベントでも継続することができ、商店街を盛り上げることに貢献している。

また、新規出店が増え、商店街では新規出店の店主、ベテラン店主、そして学生との交流も生まれてきている。



学生・地域の声

これまで、自分のやりたいことや自分の適性がわからなかったが、活動を通じて地域活性の魅力や楽しさに気づくことができた。

長く続くそらたね祭を今年も開催してくれてよかった。商店街のブランド価値が高まり、新規出店が増えている。



実施団体の紹介

立命館大学産業社会学部

坂田ゼミ

立命館大学産業社会学部でラジオを専門に学ぶ坂田ゼミ。オールドメディアとして衰退が危惧されるラジオだが、その可能性を追究し、ラジオを活かした地域交流の実現を目指している。



そらたねプロジェクト

新大宮商店街を拠点にそらたね祭を開催。

京都学生 FAST

各大学の消防防災サークルで構成される防災ネットワーク。

リッツファーム

京都の農山村地域を中心に、農業と食から地域活性化に取り組む。

事業について

目的

京都市北部地域のコミュニティ活性化のため、京都市北部の地域特色を活かした地域情報や、防災情報を発信することを目的にコミュニティFM局が開局した。

そこで私たちは京都市北区を中心とした大学や地域と連携し、ラジオ番組で北区の魅力や住民の声を発信することで人と人とのつながりを築き、地域としての魅力が一層充実することを目指した。

活動内容

「地域と大学の連携」がテーマであるコミュニティFM放送局「RADIO MIX KYOTO」にて、生放送を行った。番組のコーナーでは、北区で活躍する学生や北区住民の方をスタジオに呼び、出演して頂いた。また、出演して頂いたゲストが主催するイベントにスタッフや参加者として参加し、イベントスタッフの方や参加者の方に取材を行い、翌月の放送に取材音源を流した。この活動を通して、様々な人と「つながり」を築くことができた。

成果

〈学生にとって〉

私たちが活動を行う中で、インタビューや取材など地域の方々と交流するシーンを多く持つことができた。また、地域コミュニティを活性化させる上で、工夫をしながらアイデアを形にしていくことの楽しさ、そして難しさを学んだ。

〈地域にとって〉

私たちの制作した番組・ワークショップを通じ、今まで希薄であった学生・地域住民のつながりを生み出すことができた。また、番組から街の魅力を発信し続けたことで、住民の方々はより地域へ愛着を持つことができただろう。

学生・地域の声

ラジオ生放送という貴重な経験を活かして、一人では限界のある私たち住民の声を、学生の声と交えてもっと伝えてほしい。



ラジオに出演させてもらって、自分の活動が地域貢献につながるか改めて考えることができ、日々の取組の意義を見出すことができた。



実施団体の紹介

京都光華女子大学
光華三条ガールズ

三条会商店街と子どもたちが好きな学生による団体。子どもにとっての遊びや学びの場、地域の方にとっての交流の場をつくるべく、寺子屋で活動している団体である。



京都三条会商店街振興組合

三条会商店街や周辺地域でのイベントの企画・運営など、さまざまな活動を行っている。

イベントや商店街のお店の情報を載せたチラシを毎月発行しており、寺子屋事業の活動告知も載せて頂いている。

* * * 事業について * * *

目的

商店街のイベントや季節に合わせたイベントを企画・運営し、子どもたちにとっては遊びや学びの場として、地域の方々にとってはコミュニティの場の一つとなるような活動を行い、三条会商店街の更なる活性化を目指す事業である。

活動内容

月1・2回寺子屋で、地域の子どもたちを対象とし、主に季節に合わせたイベントを行った。11月のハロウィンイベントでは、「トリック・オア・トリート」の言葉とともに商店街のお店を回るイベントを開催。また、1月のお正月イベントでは、商店街の理事会の方やお店の方と協力して、お餅つき大会を開催した。その他にも、敬老の日のイベントや野外イベントを行い、多くの親子に楽しんでもらうことができた。



成果

〈学生にとって〉

学校では経験できない、地域の方と連携をする難しさなどを学ぶことができ、とても良い機会となっている。また、自分たちが企画したイベントを楽しんでくれる参加者を見ると、イベントを行って良かったという思いが生まれる。

〈地域にとって〉

寺子屋に遊びに来て、知らない子と友達になり、保護者同士が会話している場面が見られた。また、商店街の方と協力したイベントを行うことで、商店街の方と地域の子どもたちが会話をしている場面もあり、コミュニケーションをとる機会にもなった。



学生・地域の声

初めて参加してみたけど、物作りなどができてとても楽しかったです。次は、プラバン作りなどしてみたいです。

お姉さんたちに優しく教えてもらえるので、2歳の娘もイキイキと工作していました。また参加させていただきます。



実施団体の紹介

京北弓削さとまち交流
プロジェクト実行委員会

京都市右京区京北地域において活動している、市内の大学生によるサークルである。さとまち交流カフェ「恋咲楽」でのお手伝いを中心に、休耕地を活用した農作業や地元高校生による地域の夏祭り復活のサポートなどを行っている。

さとまち交流カフェ
「恋咲楽」

街の人が里を感じたり、味わったり、さらには里の人と街の人が交流する場を提供するために、週末カフェを開いている。京北の休耕地を活用して、にんにく・ニラの栽培をしており、それらを使った「京北餃子」も提供している。

* * * 事業について * * *

目的

元々はゼミの活動で京北を訪れていたが、京北のあたたかさに魅せられた学生が、「授業の枠を越えて活動したい」と思い立ち、友人と共に活動している。空き家を改修し、そこをさとまちの交流カフェにしようとする恋咲楽の理念に賛同し、そのお手伝いをしつつ、それぞれのメンバーが大学で学んだことを地域のために活かすことを目指している。

活動
内容

週末カフェに参加することで、接客のお手伝い・地域の方々との交流・ミニイベントへの参加などを毎週定期的に行っている。また、にんにく・ニラの収穫や新たに休耕地を開墾してにんにくを植え付けるなどのお手伝いも行った。地元の高校生が考案した夏祭りを、地域の方々の支援を受けつつ、連絡・調整などのサポートを行い、実施した。

〈学生にとって〉

成果

定期的に京北に通うことで、地元の農家や高校生、京北に来る大学生など、出会いに恵まれ、多様な生き方にふれることができた。また、大学で学んだことを、自分たちの手で実践に移す経験ができたことは良い刺激となった。



〈地域にとって〉

学生が定期的に京北に通うことで、学生との繋がりができた。地域で課題とされている休耕地も活用されている。今年復活した夏祭りも、子どもからお年寄りまで多数の参加があり、来年の開催に向けて動きだしている。

学生・地域の声



恋咲楽週末カフェを学生さんたちが手伝っている事、地元の高校生も参加している・・・など街中へ出かけなくても来てくれるふれあいが嬉しかった。

恋咲楽で、授業で自分たちが考えた夏祭り。企画したことを実現できた事が嬉しかった。達成感を味わえました。

実施団体の紹介

成逸、西陣、桃薊、聚楽の4学区の有志で作る「西陣まちおこしの会」は、西陣の朝市マルシェの主催者である。

都ライト実行委員会は、町家保全の一助となる事を目指し、魅力発信のため町家のライトアップを行う学生団体である。

事業について

6月に実施した調査により、多様な人が訪れやすいブースづくり（交流機能の強化）、生鮮食品の購買増加（販売促進）、ポスター・チラシに地域の方に魅力的な情報を追加掲載（来場促進）、SNS等ホームページへの呼び込み（若者への訴求）の4つを目的として

大人も子どもも楽しめる遊びのコーナーを設け、都ライト実行委員と共にワークショップを行った。次に、リピーター、消費額の増加を目的に「西陣はらぺこバッグ」を作成した。バッグに記載するようにする工夫も施した。チラシに関しては、従来使われていなかったの情報掲載をさせていただいた。



〈学生にとって〉

一年間を通して4回にわたってイベントの企画・運営に携わり、その度に地域の方に満足していただけるよう努力した。毎回新しい企画を考えるこの能力や計画を遂行する能力を身につけた。

〈地域にとって〉

学生の若い発想を取り入れる事で、マルシェバッグや遊び場といった来場者や子ども向けの新しい仕組みを実施出来た。同じ上京区内のイベントでマルシェバッグを持った人を見かけるなど活動の浸透具合が伺えた。



学 生 ・ 地 域 の 声

今までお手伝いさんとしてマルシェに関わっていたが、深くかかわる事で地域イベントの大変さや想いを知る事ができた。

若い人が参加してくれるだけでとても嬉しい。新しい意見などを話し合えることはいい事だと思う。

実施団体の紹介

京都経済短期大学・
地域と大学の共生プロジェクト

京都経済短期大学のソーシャルビジネスコースに属する三宅ゼミと高橋ゼミの学生が、少子高齢化などの問題に直面している洛西ニュータウンにおいて、社会的課題を調査し、その解決を行う取組。



NPO法人洛西福祉ネットワーク

洛西ニュータウンに居住している高齢者を対象にした助け合い活動を行っているNPO法人。活動拠点である「わくわくサロン」は住民の居場所となっている。

北福西町三丁目自治会

洛西ニュータウン福西学区の自治会。まちづくりの取組において、学生とのふれあいをテーマにしている。

公益財団法人京都市ユースサービス協会

洛西ニュータウンにおいて、「洛西スコール」と称する中学生学習支援活動を行っている。

事業について

目的

洛西ニュータウンは、これからの日本における課題を先取りしている地域でもある。少子高齢化に始まり、空き家の増加や老老介護などの課題が山積みとなっており、加えて、一人暮らしの高齢者も増加しつつある。そこで、若者世代である学生と共同でプロジェクトを行い、ニュータウン居住者同士のつながりを豊かにしてもらうことを目標とした。

活動内容

毎週金曜日に「わくわくサロン」へ弁当を配達し、地域住民と共に食事をしつつニュータウンの課題の聞き取りを行う「昼食を楽しむ会」を行った。留学生による中国語教室も実施した。さらに「わくわくマルシェ」という地域住民の交流の場づくりの催しに参加した。北福西町三丁目自治会では住民の要請により活動報告や楽器演奏などでふれあい活動を行った。そして、公益財団法人京都市ユースサービス協会の中学生学習支援活動について、スタッフとして参加した。

<学生にとって>

成果

自ら活動することで、洛西ニュータウンで起きている問題は、将来どこにでも生じる問題だということを実感した。また、問題意識を持ち、より深く調査していくことで、ひとつの問題が他の問題を連鎖的に引き起こしていることを知った。

<地域にとって>

学生と協働で活動することにより、ニュータウンに若者世代が移住しない理由は、「このまち街に住みたい」と感じる要素がないからだ気付いた。この気づきを「魅力あるまちづくり」に活かしていきたい。

学生・地域の声

若い学生と共に食事をする中で、学生の将来や生活など、未来の話をするのが何より楽しかった。



高齢者の方々の人生談を聞く貴重な機会を通じて、人生についての知恵を得ることができた。

実施団体の紹介

京都文教大学バスツアーズ

平成25年度から、向島ニュータウンでひとり暮らしをする「引きこもりがちな高齢者」と共に、スクールバス(向島ニュータウン発着)を利用した日帰りバスツアーを年間3~4回実施している。



向島二の丸学区社協
向島二ノ丸・二の丸北民協
京都文教マイタウン向島ランチクラブ
笑顔つながろう会(福島避難ママの会)
京都文教マイタウン向島運営会議「寄合い」
向島駅前まちづくり協議会

向島ニュータウンは、ひとり暮らしの高齢者や、経済的な困難を抱えるひとり親世帯等に対する地域ぐるみの生活支援が課題となっている。それにより、学区社協や民生委員の方の役割が大きくなっている。

事業について

目的

引きこもりがちなひとり暮らし高齢者が外出できるように、月1回の京都文教マイタウン向島ランチクラブ、歌の集いや囲碁クラブなどが実施されている。健康面や経済面で不安を抱えている高齢者に旅行の楽しさを提供するために参加者と相談しながらスクールバスを使ったバスツアーによって元気になってもらう。

活動内容

参加者のアンケートをもとに民生委員と相談しながら旅行先と内容、実施日などを検討し、1人暮らし高齢者向けを3回(7月出石・天橋立、9月法隆寺・今井町、11月湖東三山、)実施し、合計57名(平均74.7歳)の参加を得た。3月に4回目(伊賀)を実施予定。笑顔つながろう会と連携して、伏見区内の福島避難ママと子どもたちを対象にツアー(12月伊賀の里モクモク手づくりファーム)を実施し、23名の参加があった。

〈学生にとって〉

成果

- ツアー企画・実施までを体験
- 満足度アンケートによる振り返りにより学生ツアーの可能性をさぐる
- 大学隣接地域住民との交流、地域貢献

〈地域にとって〉

- 日頃、家に引きこもりがちな高齢者同士の相互交流
- 旅行に行くことで日頃のストレスを発散、生き甲斐を見いだす
- 住まいから直接気軽に行くことができる
- 学生企画のツアーに格安で参加できる



学 生 ・ 地 域 の 声

法隆寺は60年以上前の修学旅行以来で、学生さんに優しくお世話頂き感謝!次も健康で参加できるように!

福島の子どもたちと保養に来て以来で、学生さんが子どもの面倒をみてくれてみんなと一日ゆっくりできました。



VegiRitsu

「生産過剰や出荷規格外の野菜で作ったスムージーの販売」や「収穫体験&料理教室ツアー」を通じて、農家と学生を繋げ、新たなコミュニティを創り出すことを目指して活動している。



実施団体の紹介



森田農園

京都市北区上賀茂の農家で、土づくりを大切にしている農業を行っている。

8 garden

栄養士の資格を持つ女性が経営するカフェで、健康・美容食の提供や食育活動にも取り組んでいる。

REAL ME

花屋にカフェを併設し、「人が集うコミュニティ」をコンセプトに店づくりをしている。

事業について

目的

「生産過剰や出荷規格外であることを理由に廃棄する野菜がある」「農業の奥深さや食の大切さを若い世代に伝えたい」という農家側の課題や想いと、「不健康な食生活を改善したい」「農業に興味はあっても、どう接点を持てばいいかわからない」といった学生側の声を結び付け、双方の課題解決を目指す。

活動内容

「畑から食卓まで」と題した収穫体験&料理教室ツアーを企画し、関西の複数の大学の学生に参加してもらった。規格外の京野菜の収穫を北区上賀茂の森田農園で行ったあと、カフェで料理教室を開催した。栄養士の方と共同でメニューを考案し、「素材の本来の美味しさを消さない」味付けや調理方法を学生に伝えることで、「土づくりの大切さ」や「食の力」について語り合う場を提供した。



〈学生にとって〉

成果

地域の方と連携することで、活動の幅が広がり、内容もより充実した濃いものとなった。また、「共感」から「協働」へと関わり合いを深めていった経験は、団体にとって自信にもなり、アイデアを具現化していくプロセスを学ぶ貴重な機会となった。

〈地域にとって〉

協働したことで、学生独自の視点や発想と地域の方の知恵が融合した企画が実現した。また、企画を通じて、地域の人同士にも新たな繋がりが生まれ、波及効果ももたらされている。

学生・地域の声

収穫しただけで野菜への愛着があふれたし、どうしてナスの形がデコボコなのかも説明してもらえて、学びながら楽しめた！

やっぱり食は人を繋ぐ、幸せにする大切な分野なのだとは再認識させられました。



学まちコラボ事業

学まちコラボ事業は平成16年度から実施しており、今年度で13年目を迎えました。振り返ればこれまでに150近い事業を採択し、その活動を応援してきました。中には継続した取組も増え、その取組内容は回を重ねるごとに充実し、地域に根付いた活動となっています。本事業への申請がきっかけとなって、ますます地域が活性化し、魅力あふれる京都のまちになることを願い、事業を実施していきます。

平成
27年度

最優秀事業団体

「京都市立芸大生有志による
ニコニコファミリーコンサート実行委員会」

学まちコラボ事業では、平成25年度より、報告会において最も優秀な事業団体を表彰し、トロフィー、賞状、活動奨励金（10万円）の授与を行っています。

昨年度は「京都市立芸大生有志によるニコニコファミリーコンサート実行委員会」のみなさんが受賞され、申請の際に明確に掲げた目的をきちんと実践し、その活動が自分たちの言葉でしっかりと語られていたところが評価されました。



団体からのメッセージ

「京都市立芸大生有志によるニコニコファミリーコンサート実行委員会」は、「大人も子供も楽しめる音楽会」をテーマに、観客参加型のファミリーコンサートや音楽ワークショップを企画・運営している有志団体で、市内各地の施設やホールにて活動を行っています。

平成27年度は、「ほっこりスペースでの月1音楽会」と、「ホールにて演奏会を開くこと」が活動のメインでした。ほっこりスペースでは、利用者の方やスタッフの皆さんの生の声をたくさんお聞きし、自分たちが大学で学んでいるスキルを活かしつつ、様々なかたちで音楽に親しめるよう尽力しました。そして3月には京都市西文化会館ウエスティにて、『0歳からのオペラ 子供と魔法』を上演いたしました。当日はベビーカー置き場や、おむつ替えシートを完備し、保護者の皆様が安心してお越しいただける演奏会を目指しました。「子どもが小さいときに、本格的な生の音楽を聴けるとは思わなかったから嬉しかった」「オペラは初めて観たけど子どもが釘付けになっていた。また行きたい」などのお言葉をいただくことができ、私たちも本当に嬉しかったです。これからもたくさんの音楽をお届けしていきたいです。



「連携・協働の中で学ぶ」って??

学まちコラボ事業が考える「連携・協働」とは、市民及び事業者の皆様などの**京都市で暮らす地域の方々と大学・学生が、「地域のために」という目的・目標を共有し、共に手を取り合って活動**することです。

もちろん、最初から完璧な連携を求めているわけではありません。連携にはより深い連携に向けて相手に働きかけていく段階もあります。異なる組織同士が目的・目標を共有することは簡単なことではありませんし、互いに温度差があったり、トラブルや失敗が起こるなど、うまくいかないこともあります。しかし、**手をつなぐ相手がいて、互いに協力しながら活動を進めていく関係性の中からこそ生まれる学びがあります。**

学まちコラボ事業は、**連携するからこそ得られる学びを重視し**、大学・学生と地域の連携・協働による取組を応援します。

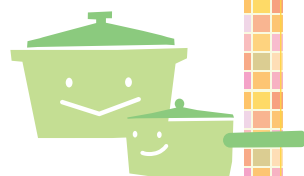
ご存知ですか?

協働がおいしくなるKyoのレシピ帳

「協働がおいしくなる Kyo のレシピ帳」は、「市民参加推進フォーラム」の委員が、立場の異なる人や団体との協働に取り組む方々に行ったインタビュー結果と、「市民参加円卓会議（平成 26 年 2 月 11 日開催）」で多くの市民の皆様との意見交換を踏まえて作成されたものです。既に活動の発展や充実のために他の団体等との協働に取り組んでいる方や、これから取り組もうとする方に対して、協働を円滑に進めるためのヒント等をイラスト付きで解説されています。

相手探しや目標の共有など、連携のコツを知りたい方は「協働がおいしくなる Kyo のレシピ帳」をチェック！

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000169167.html>



乾選考委員長メッセージ



「学まちコラボ」は、大学生の学びを支援する京都市と大学コンソーシアム京都の事業ですから、支援の大きな目的は「学生さんの学び」「学生さんの成長」です。ここが、他の「まちづくり」支援事業とはひと味違う、本事業の最大のウリです。

「学まちコラボ」事業は、学生さんが「地域の方と一緒に、地域のために活動する」なかでの学びと成長を重視しています。地域を知り、地域の方と連携し、地域の方と気持ちを通わせながら、大学で習った知識や技を現場で活かす…そんな「実感を伴う学び」に赴くことを求めています。これが本事業の第2のウリです。

「上手くいくかなあ」と不安な人も居るかもしれませんが、安心してください。こんな（先の見えない…笑）学びの冒険をサポートするため、事務局と選考委員会は、支援団体決定の後も、アドバイスや他団体との交流の場を用意しています。これが第3のウリです。

じつはこんな体験は、地域活動が盛んな、そして学生さんを大切にする気風に満ちた京都でなければできない、とても贅沢な学びなのです。おまけに…来年度は「文化枠」という新しい募集枠も増えました。「地域の文化」「地域で文化」…ん？、文化ってなんや？…みんなで面白がってください。待っています。



協働



(公財) 大学コンソーシアム京都 学まちコラボ事業担当
TEL : 075-353-9130 / FAX : 075-353-9101
(※日・月を除く 9:00~17:00)
Mail : gakumachi-admin-ml@consortium.or.jp
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

京都市総合企画局総合政策室 (大学政策担当)
TEL : 075-222-3103 / FAX : 075-212-2902



検索

学まちコラボ



発行：京都市総合企画局総合政策室
京都市印刷物 第283213号 平成29年3月



この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！

